

「宇治十帖」

「宇治十帖」は「橋姫」から「夢浮橋」までの十帖、光源氏の息子・薫の君や、彼を取り巻く大君、中君、浮舟といった女性を中心となって織り成す、いわば源氏物語の終章ともいべき十編の物語です。自分の出生に疑問を抱く光源氏の息子薫は光源氏の異母弟である八の宮に会うべく宇治を訪れます。勢力争いに巻込まれ零落し、宇治山の阿闍梨のもとで仏道に帰依していた八の宮を慕い、薫が宇治の山荘へ足繁く通うところから宇治十帖は始まります。

これまでの物語はほとんど京が中心でしたが、舞台は宇治に移り、登場人物も薫と匂宮という二人の貴公子と、京から宇治に移り住んでいた八の宮の美しい娘・大君、中の君、浮舟(異母妹)の三姉妹中心に、それぞれが恋を争うというストーリーです。さきの光源氏の華やかな恋物語以上に複雑な展開をみせ、特に浮舟は薫と匂宮の二人の男に身を許し、苦悩の果てに宇治川へ身を投げるとい悲恋のストーリーが現代小説風に描かれています。

上原まり(朗読・筑前琵琶)



神戸市出身。筑前琵琶・旭会総師範・二世柴田旭堂の一人娘として、幼い頃から琵琶に親しみ、後継者として柴田旭艶という名を持つ。高校1年生のとき、東京新聞主催邦楽コンクール琵琶部門に最年少で3位入賞するなど、芸への非凡な才能を持った彼女は、やがてステージ女優への憧れを抱き、宝塚歌劇団へ入団する。この決断は彼女にとって大きな冒険であったが、母・柴田旭堂はこの娘の判断を人生のひとつの節目として認め、温かく見守ってくれた。宝塚歌劇団入団後は、かの大ヒット作「ベルサイユのばら」のマリー・アントワネット役等でトップスターとして活躍した。

1981年に宝塚歌劇団を退団し、琵琶演奏家として古典芸能の世界にデビュー。関係者及びファンに大きな驚きと、それにも増す話題を集めた。その後の琵琶奏者としての活躍ぶりは目覚しく、ライフワークとなっている「平家物語」シリーズ、源平の女人たちを描いた「中世女人抄」、他に「雨月物語」「西行」等、すべて自身の作曲による作品を発表。ステージを中心に全国で公演している。現在、「瀬戸内寂聴訳源氏物語」朗読のシリーズに挑戦。常に琵琶の新しい魅力を追求し、その普及に意欲を燃やしている。また、演奏活動の間には、「我が心の旅」「平成古寺巡礼」「千年文化源氏物語」(NHK-BS)等のテレビ番組にも数多く出演している。2003年12月、その功績を讃えて「平成15年度文化庁長官表彰」を授与された。

水原央(脚本)

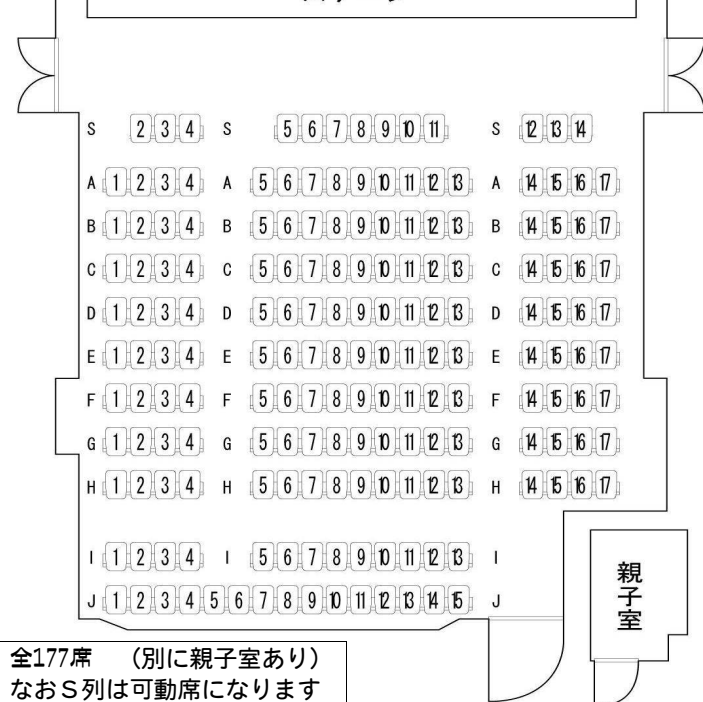
東京大学理学部数学科卒業。

大学在学中の2003年、銀座博品館劇場「上原まり 小泉八雲を語る」で演出デビュー。同年より上原まり琵琶語り「源氏物語」シリーズの脚本をつとめる。2006年銀座博品館劇場「うき身を醒めぬ ゆめになしても」より同劇場主催の源氏物語の朗読劇で脚本を担当。「艶は匂へど……」2007年版は初風緑、月影瞳、峰さを理、2008年度版は荻野目慶子、土居裕子などの出演で上演された。

2008年から2年間は、JFN系列ラジオ番組「百万人の源氏物語」でアナウンサーの近藤サトとともにパーソナリティをつとめ、2009年には同局「名言3・6・5 日々是論語」を担当するなど、源氏物語をはじめとする古典に根ざした活動を展開している。

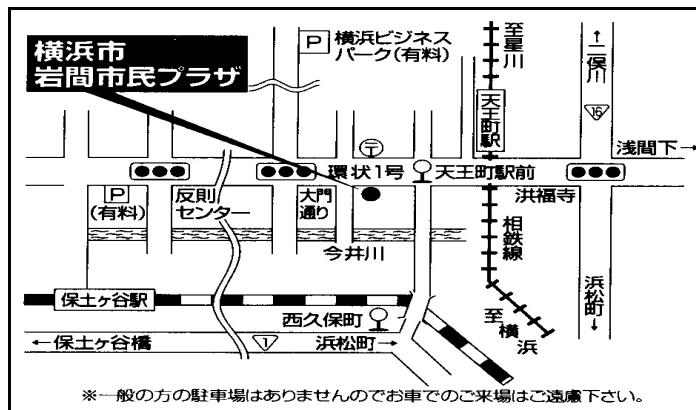
ホール 客席のご案内

ステージ



岩間市民プラザ 交通のご案内

- ・相鉄線(各停)「天王町」駅下車 徒歩2分
 - ・JR横須賀線「保土ヶ谷」駅西口下車 徒歩10分
 - ・国道号線バス停「西久保町」か「久保町」下車 徒歩6分
- ※一般駐車場はございませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。



岩間市民プラザ (公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)
〒240-0004 横浜市保土ヶ谷区岩間町1-7-15
電話: 045-337-0011 / FAX: 045-337-2500
チケット受付 9:00~21:00 休館日 2/8・3/8・4/12・4/19